



今月の援農状況

Let's Activate Area AGRI

- 炎暑延々 太陽が照りつける畑で 大勢の皆さまに汗をながしていただきました。夏のビッグプロジェクトが二つ — 「ブルーベリー収穫」「桑の葉収穫」。ブルーベリーは昨年よりも規模が拡大して 延べ 170 人 (8/28 現在)、今年からスタートしました桑の葉は延べ 16 人。お疲れ様でした。
- 援農時間の今年度累計値は 7 月末現在 昨年比約 20% 増となっています。

援農体験記「桑の葉の収穫」 みつい台 加藤詠二

8 月 23 日この日八王子の最高気温 35.5 度、梅坪町谷津さん宅で「食用桑の葉」収穫を体験しました。新滝山街道に接する斜面に広がる桑畑から、道の駅を眼下に見ての作業です。この日は今年 2 回目の収穫期にあたり、静岡の製茶工場に 400 キロの葉を出荷するために、すずしろメンバー 7 名を含め 20 名の大編成です。大きな葉は野球のグローブの大きさがあり、ボリューム感たっぷりです。桑の葉は 9 月に行う 3 回目の収穫に備え、光合成を助けるため、木の上から 1 メートルまでの葉は残し、あとは全部切り取ってしまいます。午前の作業が終わる頃には畑一面トーテムポールが林立するような光景になりました。午後 3 時、近隣農家の収穫と合わせ本日目標達成。冷凍車で静岡へ送り出されていきました。数日後には桑緑茶や桑玄米茶に加工され、道の駅に戻ってくるそうです。桑の都の新たな産品として、「桑の葉茶」が脚光を浴びる日もそう遠くない、と思いました。



農園・SPP・イベント 便り

- ☆ 農家の計画・管理・指導のもと主体的な援農作業
- ☆ 技術体得・会員交流・遊休地対応の活動



すずらん畑小屋

採りたての西瓜の前に

☆梅の木

種から育てたねぎ苗を移植し 草取り 2 回へて約 1 カ月。太さも色も増してきました。9 月には収穫できそうです。

☆すずらん

モロヘイヤが緑豊かに育っています。数回の収穫で肩ほどの高さになりました。花が咲きだしたら収穫終了。9 月より 秋野菜の種まきがはじまります。ご参加を。



「大西瓜 西半球は 近所へ」 (読売)

雑草との付き合い方 1/2

・「雑草と云う物は無い」と書かれた文を見たことが有る。しかし農作業に関わって居れば必ず雑草と戦わなければならない。つまり雑草は存在している。

漢和事典で雑草を調べたら、①「自然に生える草」となっていたが、これは誤りだ。これでは野に咲く花、山に咲く花も悪者になってしまう。これらは野草・山草と言うべきだ。②「栽培した草木以外の、栽培の邪魔になる草」とある。これは①よりましな定義だが、詳しくは、農作物にとってマイナスになる草木と、庭園や公園、道路などで美観をそこねる草木も含まれる。しかし「〇〇草は雑草である」と言うことは出来ない。ススキを庭に植える人が有るのは理解できるがセイタカアワダチソウまで植えて楽しむ人が有り、人さまざまだ。セイヨウタンポポも、初めは外国人が食用に植えたものだそうだが、今では在来種に取って替るだけでなく、雑種も作り、種の純粋さが失われようとしている。



・雑草の生活史

草の生き方には次の 3 通りの型があり、除草方法に関係する。

- 1 年草 春発芽して種子を作って冬には枯れている草。例えば、メヒシバ・ブタクサ、多くの春巻き野草
- 1・2 年草 越年草とも言う。秋に発芽して苗で越冬し、種子を作って夏までに枯れる。これは春に発芽して 1 年草にもなれる。例 ハコベ・ホトケノザ・ハルジオン、秋まきの野菜など。
- 多年草 宿根草とも言い、ススキ・タンポポ・ドクダミ・スギナ、作物はフキ・ミョウガなど。 以下 9 月報 西浅川町 吉山寛

事務局からのお知らせ

人材—農家需要 と市民意欲のマッチング

(1) 熱中症

マスコミが報ずる熱中症情報を気にしつつ 農作業応援をお願いしてきました。ご協力ありがとうございました。穏やかな雨と気候和らぐ風を期待です。「白露」は 9/8 とか。

(2) NPO 法人による市民農園 : 『富所(とみどころ)農園』の開園

8/15 から準備作業にはいりました。暑さの中の整地—区割—休憩小屋づくりでした。「休耕地の有効活用」「市民に農の場を提供」「新規営農形態の提案」をめざしています。

(3) 収穫祭の開催予定

昨年と同じ こどもキャンプ場で 10 月 30 日(土) — 予備日 31 日(日)と計画しました。大勢の皆さまの参加をお待ちしています。ご予約下さい。

<発行 会報紙編集会>

合津 highz_85@cosmos.ocn.ne.jp 飛田 emiko_tobita@ybb.ne.jp 山口 leaf-river-86@nifty.com